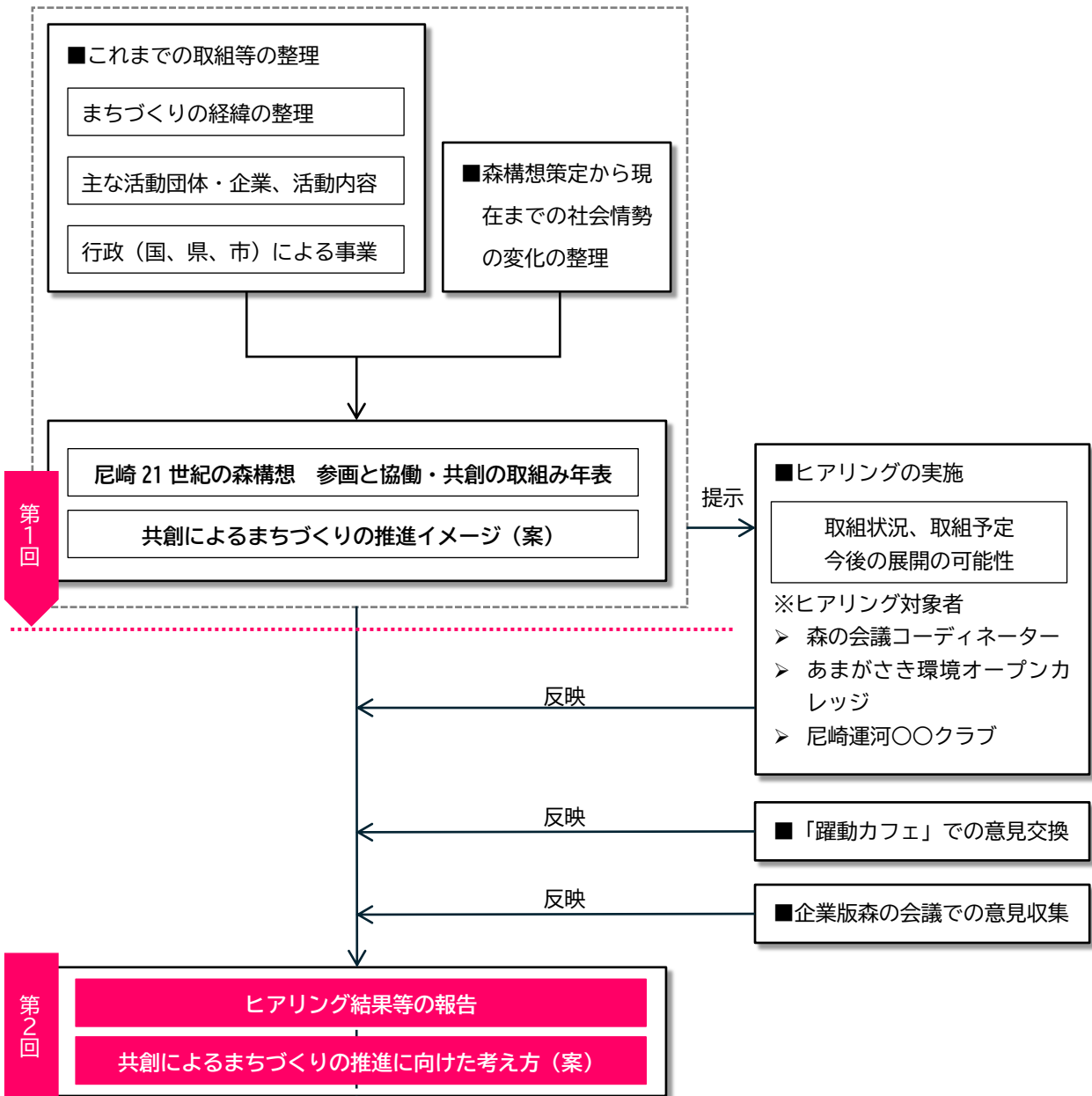


# 尼崎 21 世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進について

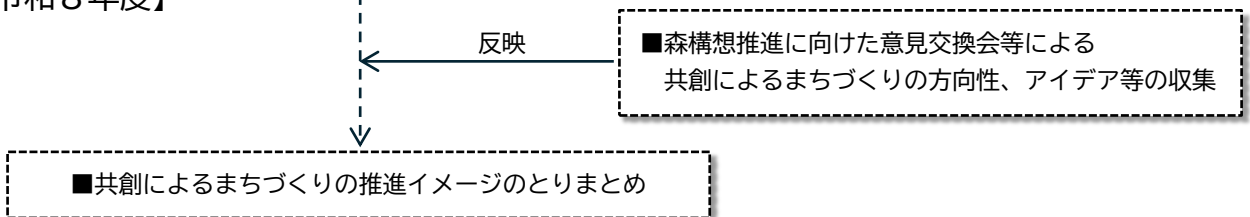
## 1. 本協議会における検討の進め方

令和 7 年度：これまでの取組状況を整理し、共創によるまちづくりの推進イメージについて検討  
令和 8 年度：関係者との意見交換会等を通じて、共創によるまちづくりの推進イメージとしてと  
りまとめ

### 【令和 7 年度】



### 【令和 8 年度】



## 2. ヒアリングの実施報告

### 1) 目的

尼崎 21 世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進に向けて、森構想エリアにおけるこれまで及び現在の取組状況、今後のプラットフォームのあり方や多様な主体の連携を促進する推進体制、新たな取組やアイデアを生み出すしくみなどについて検討するため、ヒアリングを実施した。

### 2) ヒアリング概要

森構想の推進にあたり早期からプラットフォームとしての役割を担い、様々な活動を展開している団体等を対象としてヒアリングを実施した。

#### 【実施概要】

実施日	対象者	団体等の主な活動
令和 7 年 12 月 2 日 (火)	森の会議 コーディネーター：若狭氏	尼崎 21 世紀の森構想エリア全体でのまちづくりプラットフォーム
令和 7 年 12 月 4 日 (木)	あまがさき環境オープンカレッジ 理事長：大原氏	環境の視点から尼崎市内の様々な主体のコーディネート
令和 7 年 12 月 21 日 (日)	尼崎運河〇〇クラブ メンバー：徳島大学 山中氏 ネイチャークラブ 中岡氏	尼崎運河の水質浄化や環境学習など様々な主体が集まるプラットフォーム

### 3) ヒアリング結果

団体等の取組状況や、共創のまちづくりに向けた取組の展開イメージなどについてヒアリングした結果をふまえ、今後の「森構想エリアにおける共創のまちづくり」、「森構想エリア内外との連携・しくみ」、「次世代への継承」に関する意見を以下の通り整理した。

#### <森構想エリアの共創のまちづくりに繋がる意見>

- ・プラットフォームでは、メンバー同士の相互理解が進むように意識している。
- ・共創のまちづくりを進めるうえで、様々な世代や背景を持つ人・団体が対等な立場で参画し「学び合える」ことや、組織の一員という立場と同時に、個人間でも繋がりを持てることが大事である。
- ・行政の支援があると、社会的な信頼度が高いため、公共性のある取組を進めるうえで行政と連携することは重要である。
- ・地域の特徴に合ったまちづくりの進め方があり、尼崎の場合は、面白いことを受け入れてくれる地域である。また、居住者がいない工業地域ならではの取組も考えてはどうか。
- ・森構想エリアならではのポテンシャルを、上手く発信できていないことが課題であると感じる。広報に力を入れるとともに、森構想エリアの中で活用や連携の可能性のある場所との関わりや、新しい人をどのように惹きつけていくのかを検討していけると良いと思う。
- ・アクセスの課題については、楽市楽座で県がシャトルバスを手配していたように、大規模イベントを行う際などに、県がバスを手配することができれば、場の魅力が増すのではないかと。

### <構想エリア内外との連携や、繋がるしくみに関する意見>

- ・何かをやりたい人に対して開かれた場所になるために、規制を緩和しつつ、森構想エリアで目指すことから外れないように協議会等が見守ると良い。
- ・企画段階から共に考えることが大事であり、企画や相談などのプロセスを通して、信頼関係が生まれる。
- ・プラットフォームは、活動を上手く回し続けるとともに、人材育成の基礎代謝の場である。プラットフォームのシステムは、時代の変化とともに柔軟に形を変えることも検討していけば良い。
- ・行政主導ではなく、市民等が主体となった活動を行政が予算や機会づくりで支援をすることで、プラットフォームを継続していける。
- ・森構想エリアに限らず、他の地域との学び合いを経験することで、自分たちの取組に対する気付きが生まれる。そうして、関係人口が増えると、一緒に面白いことができる可能性が広がる。
- ・尼崎市内での他の活動等と繋がるには、尼崎市などと連携していく必要があるだろう。
- ・森構想エリアで活動しているプラットフォームや団体等の想いや活動内容を知るための相互理解の機会を設けてはどうか。

### <次世代への継承に関する意見>

- ・尼崎 21 世紀の森構想のまちづくりを推進していく次世代の人材の育成は、どの団体でも課題と感じられている。
- ・誰かが築いたことの継承だけでなく、新しく関わる人が「こうしたい」ということを実現できるようにサポートすることで、組織や取組の新陳代謝を良くしていく必要があるだろう。
- ・コーディネーターの仕事は、利益の創出が難しく、若い世代は生計を立てにくいなどで、続かなく次世代が上手く育っていない。若い世代が携われる仕組みが必要であると思う。

### 3. 「躍動カフェ（阪神南地域）」での意見交換

#### 1) 「躍動カフェ」とは

「もっと躍動する兵庫」をキーワードに、地域で活躍する県民と知事が対話をする取り組み。

地域ごとにテーマを決めて、魅力や課題、将来の展望について、共に考え、語り合う場。



#### 2) 阪神南地域での開催について

日 時：令和7年12月23日

参加者：阪神南地域（尼崎市、西宮市、芦屋市）に在住・在勤等しており、ツーリズム、環境保全活動、青少年育成など各方面で活躍している方

テーマ：“住みたい” “働きたい” “訪ねたい” 未来に繋がる魅力ある阪神南

実施内容：4つのグループに分かれ、内1つは「水と緑と人が共生する環境創造のまちづくり」を推進する阪神南地域において、尼崎21世紀の森構想エリアをはじめとした環境保全活動を通じた関係人口拡大等について意見交換が行われ、以下の意見が挙げられた。

#### 【意見】

##### ■次世代について

- ・既存の活動の担い手が固定化・高齢化している。
- ・若い世代が関わりやすくなる方法として、協議会に若い世代に入ってもらったり、イベントの際に部分的ではなく、若い世代に完全に任せることなどを検討していくのはどうか。
- ・若い世代は、緑がある公園だけでは来ない。

##### ■魅力ある場づくりについて

- ・青空上映会など独自性のあるイベントは魅力的で好きになる。
- ・継続性のあるイベントを開催してはどうか。
- ・子ども連れは遊具が沢山あれば好きになるのではないかな。

##### ■繋がるしくみについて

- ・市や県のイベントに協働で取り組むことを通じてお互いの距離を縮めることは大事である。
- ・地域や学生、行政が協働でイベントする際に、企画や実施は地域や学生が主体となり、行政はその支援にまわってもらえると良い。
- ・現状の制限やルールについて疑問があれば、議論の機会を作れば良いのではないかな。
- ・アクセスの悪さに対して、駅の近くで森づくりに関する議論の場を開くことができれば、参加者が増えるのではないかな。
- ・様々な人に片っ端から声をかけて関係人口を増やすのはどうか。

##### ■情報発信について

- ・魅力を上手く伝えきれていない。SNS（インスタやTikTok）での発信や、運河や尼ロックの夜景などを映像で伝えることや、映えスポットとなるものを誘致する等が考えられる。

## 4. 共創によるまちづくりの推進に向けた考え方のまとめ（案）

### 1) 令和7年度の検討結果

#### (1) 尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の森づくり年表の作成

森構想初期の行政主導型の取組から近年の各種団体等が主体となった共創の取組へと広がっていったことや、森・運河・まちが連携した活動への展開の兆しを把握することができた。

#### (2) ヒアリングの実施

共創による取組を進めるためのプラットフォームのあり方や、森構想エリアの魅力をいかした今後の活動の展開などに関するアイデア等を得ることができた。

#### (3) 躍動カフェにおける意見交換

若い世代が関わる機会づくり、関係人口を増やすための繋がりをつくるためのしくみや情報発信に関するアイデアなど、持続可能な取組を進めていくにあたり重要な考え方を把握することができた。

#### (4) 企業版森の会議を通じた意見の把握

森構想に関わることの企業メリットや、企業が森構想エリアのまちづくりにどのように関わることができるかなどについての意見交換を通じて、企業と各種団体の win-win な関係を築いていくために必要な考え方等を把握することができた。

### 2) 共創によるまちづくりの推進に向けた重要な考え方（案）

本年度の検討結果をふまえ、共創によるまちづくりの推進イメージのとりまとめにあたって重要と考えるポイントを以下に示す。

#### (1) 「共創」の基本的な姿勢

- まずは、森構想にかかわる各主体の相互理解が大事。
- 市民、団体、企業、行政といった様々な主体が対等な立場で連携し、お互いの得意・不得意を補い合う関係性を築く。
- 連携に際して各主体および参加者は、自己実現だけを目的とせず、お互いに win-win となるような「学び合い」の姿勢を大事にする。
- 組織の一員という立場であると同時に、人と人の付き合いから育まれる信頼関係を大事にする。

#### (2) 共創を進めていくためのプラットフォームのあり方

- 森構想で目指すまちの将来イメージを共有するとともに、活動の継続や人材の育成、主体間のマッチングなどの役割を担う。
- 誰でも参加しやすい場・機会となるように、間口は広く、「やりたい」を受け入れて支援し合える、柔軟で開かれた場とする。
- プロジェクトの実施だけではなくプロセスを大切に、企画・相談段階から共に考えることを通じて信頼関係を築いていく。
- 森構想エリア外（尼崎市内外問わず）とつながることで、関係人口を増やす。

### (3) 森構想エリアならではの価値・取組を生み出すために必要なこと

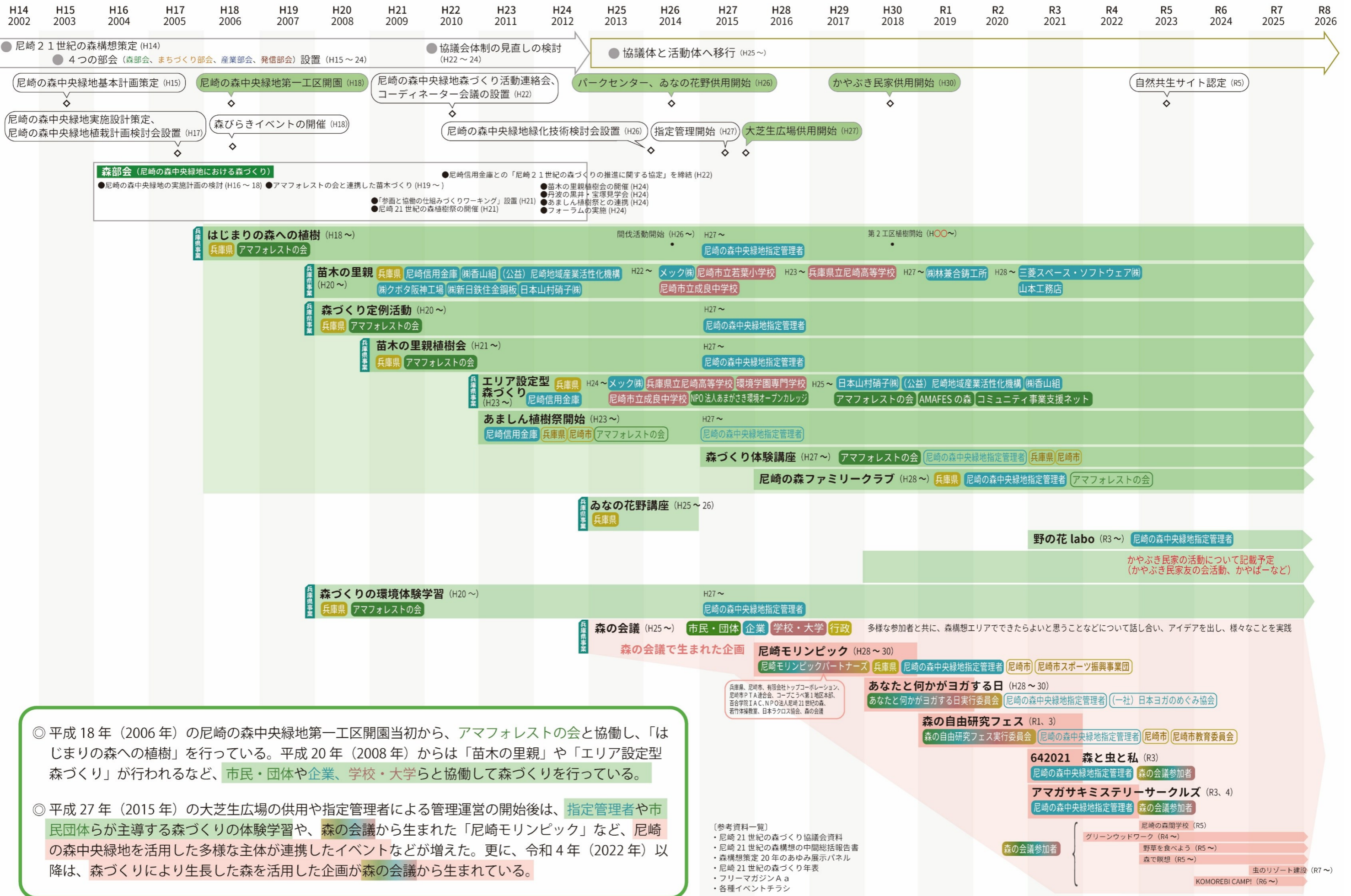
- 中央緑地や、未活用地のポテンシャルをいかす・伝える。
- 工業地域であることの特長をいかす・伝える。
- 次世代へ継承していくために、高校生や大学生、若い世代が携われる機会をつくり、組織や取組の新陳代謝を良くしていく。

# 尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の取組み年表 (案) 森づくり

主な活動者  
イベントの主催者など 市民・団体 企業 学校・大学 行政

活動の協力者  
イベントの後援など 市民・団体 企業 学校・大学 行政

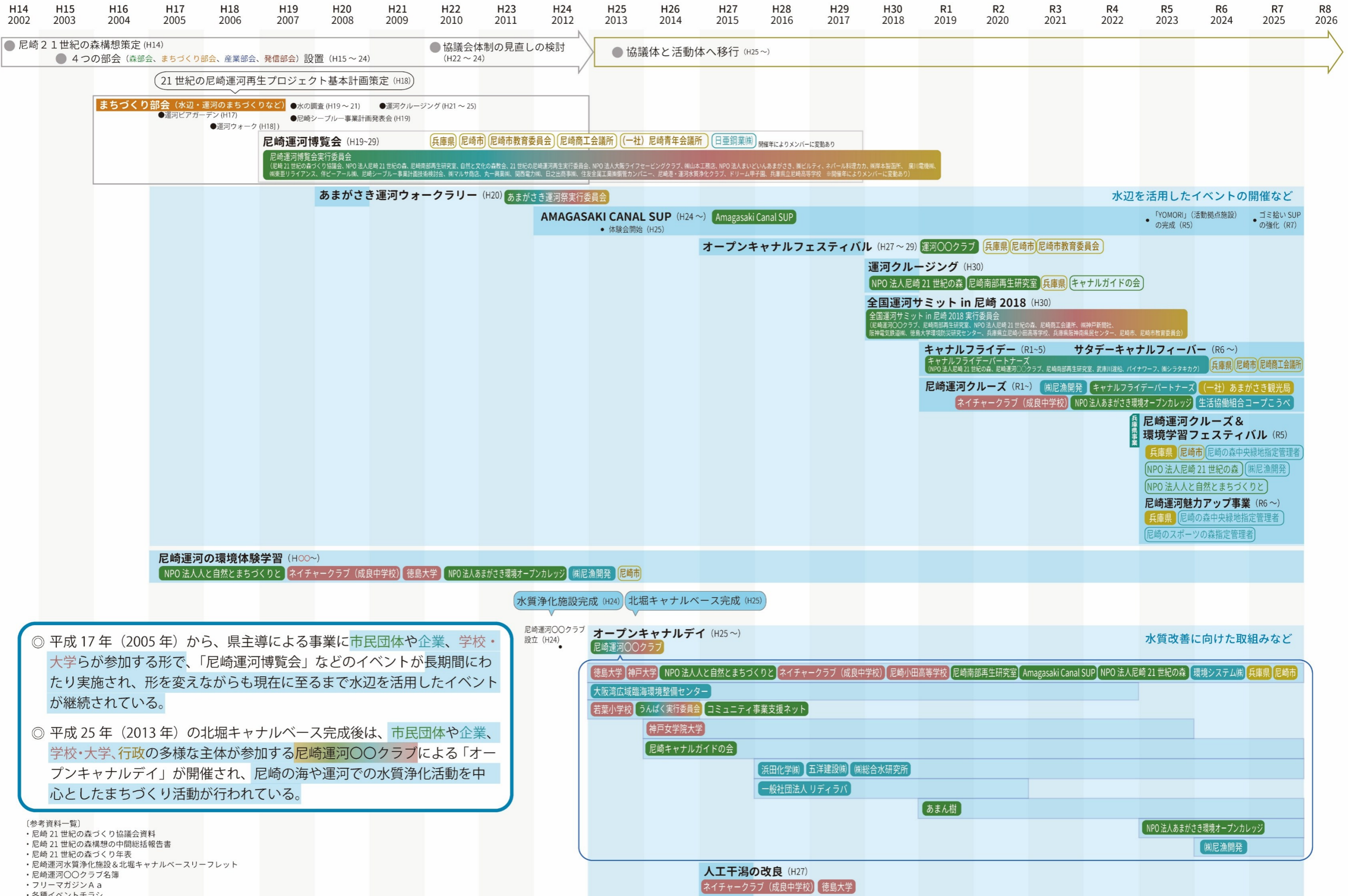
第 1 回協議会から一部更新



◎平成 18 年 (2006 年) の尼崎の森中央緑地第一工区開園当初から、アマフォレストの会と協働し、「はじまりの森への植樹」を行っている。平成 20 年 (2008 年) からは「苗木の里親」や「エリア設定型森づくり」が行われるなど、市民・団体や企業、学校・大学らと協働して森づくりを行っている。

◎平成 27 年 (2015 年) の大芝生広場の供用や指定管理者による管理運営の開始後は、指定管理者や市民団体らが主導する森づくりの体験学習や、森の会議から生まれた「尼崎モリンピック」など、尼崎の森中央緑地を活用した多様な主体が連携したイベントなどが増えた。更に、令和 4 年 (2022 年) 以降は、森づくりにより生長した森を活用した企画が森の会議から生まれている。

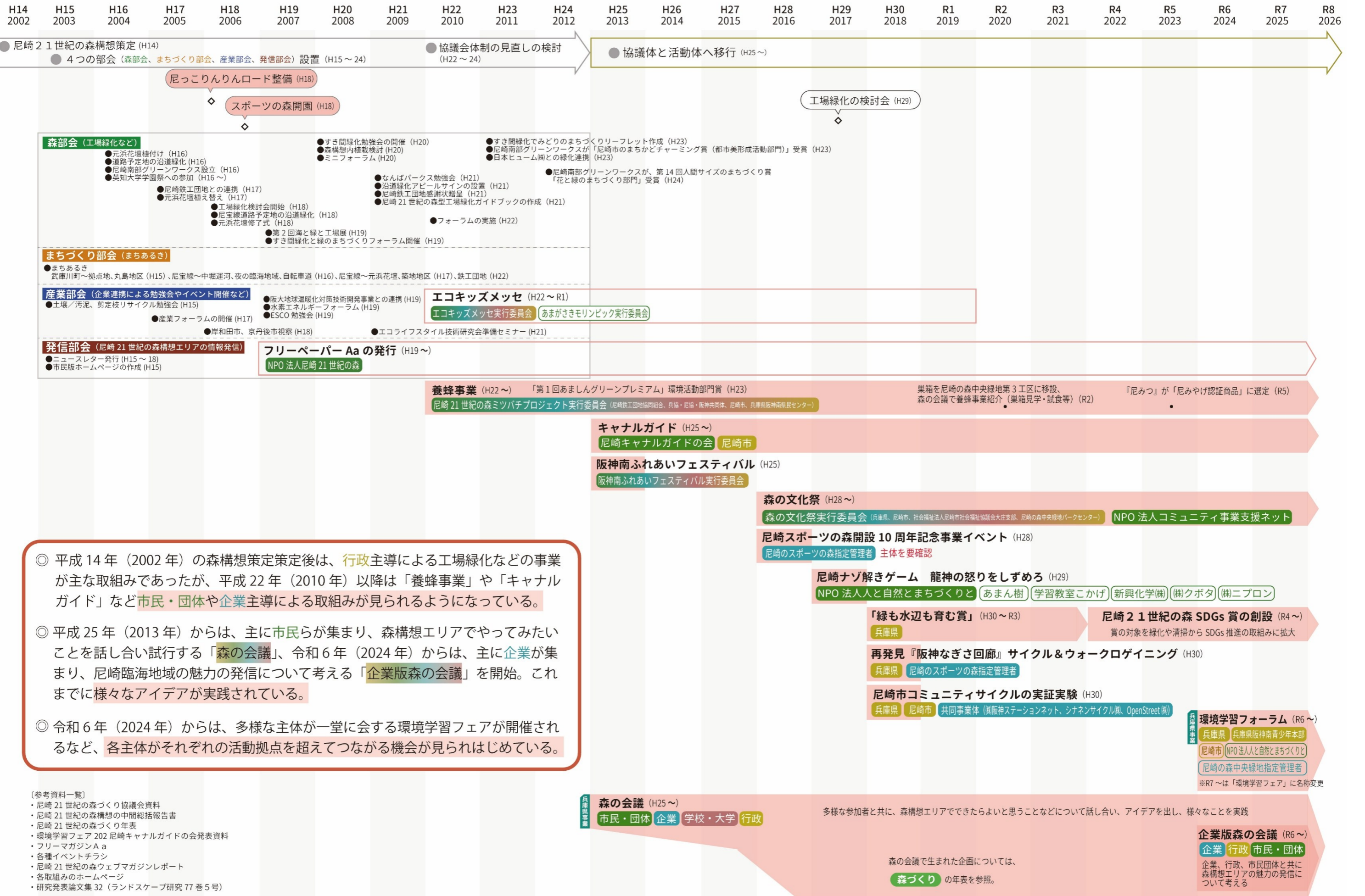
【参考資料一覧】  
 ・尼崎 21 世紀の森づくり協議会資料  
 ・尼崎 21 世紀の森構想の中間総括報告書  
 ・森構想策定 20 年のあゆみ展示パネル  
 ・尼崎 21 世紀の森づくり年表  
 ・フリーマガジン A a  
 ・各種イベントチラシ



◎ 平成 17 年 (2005 年) から、県主導による事業に市民団体や企業、学校・大学らが参加する形で、「尼崎運河博覧会」などのイベントが長期間にわたり実施され、形を変えながらも現在に至るまで水辺を活用したイベントが継続されている。

◎ 平成 25 年 (2013 年) の北堀キャナルベース完成後は、市民団体や企業、学校・大学、行政の多様な主体が参加する尼崎運河〇〇クラブによる「オープンキャナルデー」が開催され、尼崎の海や運河での水質浄化活動を中心としたまちづくり活動が行われている。

〔参考資料一覧〕  
 ・尼崎 21 世紀の森づくり協議会資料  
 ・尼崎 21 世紀の森構想の中間総括報告書  
 ・尼崎 21 世紀の森づくり年表  
 ・尼崎運河水質浄化施設 & 北堀キャナルベースリーフレット  
 ・尼崎運河〇〇クラブ名簿  
 ・フリーマガジン A a  
 ・各種イベントチラシ



◎ 平成 14 年 (2002 年) の森構想策定策定後は、行政主導による工場緑化などの事業が主な取組みであったが、平成 22 年 (2010 年) 以降は「養蜂事業」や「チャンネルガイド」など市民・団体や企業主導による取組みが見られるようになってきている。

◎ 平成 25 年 (2013 年) からは、主に市民らが集まり、森構想エリアでやってみたいことを話し合い試行する「森の会議」、令和 6 年 (2024 年) からは、主に企業が集まり、尼崎臨海地域の魅力の発信について考える「企業版森の会議」を開始。これまでに様々なアイデアが実践されている。

◎ 令和 6 年 (2024 年) からは、多様な主体が一堂に会する環境学習フェアが開催されるなど、各主体がそれぞれの活動拠点を超えてつながる機会が見られはじめています。

【参考資料一覧】

- ・尼崎 21 世紀の森づくり協議会資料
- ・尼崎 21 世紀の森構想の中間総括報告書
- ・尼崎 21 世紀の森づくり年表
- ・環境学習フェア 2022 尼崎チャンネルガイドの会発表資料
- ・フリーマガジン Aa
- ・各種イベントチラシ
- ・尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンレポート
- ・各取組みのホームページ
- ・研究発表論文集 32 (ランドスケープ研究 77 巻 5 号)

**森の会議 (H25~)**  
市民・団体 企業 学校・大学 行政

多様な参加者と共に、森構想エリアでできたらよいと思うことなどについて話し合い、アイデアを出し、様々なことを実践

森の会議で生まれた企画については、**森づくり** の年表を参照。

**企業版森の会議 (R6~)**  
企業 行政 市民・団体

企業、行政、市民団体と共に森構想エリアの魅力の発信について考える

共創によるまちづくりの推進イメージ（案） ～多様な主体間連携やプロジェクトが広がるイメージ～

- 既存のプラットフォームやプロジェクトをきっかけに、各主体あるいはプラットフォーム同士がつながり、新たなプロジェクトが生まれる。
- 森構想エリアにおけるプラットフォームやプロジェクトの広がり、森づくり協議会で共有・発信し、取組の展開をサポートする。
- 各プラットフォームは、継続するものもあれば、その時々状況により必要に応じて生まれ消える可変的なものであり、これに応じて協議会での議題や参加者も柔軟に対応可能な体制とする。



森の会議から生まれたプロジェクトの実施

- 例)・あまがさきモリニック
- ・こもれびキャンプ 等



尼崎の森中央緑地での森づくりに関するプロジェクト

- 例)・はじまりの森の育成
- ・苗木の里親、森づくり活動、エリア設定、あましん植樹祭等



企業版森の会議から生まれたプロジェクトの実施

- 例)・環境学習フェアでの企業共同企画の実施

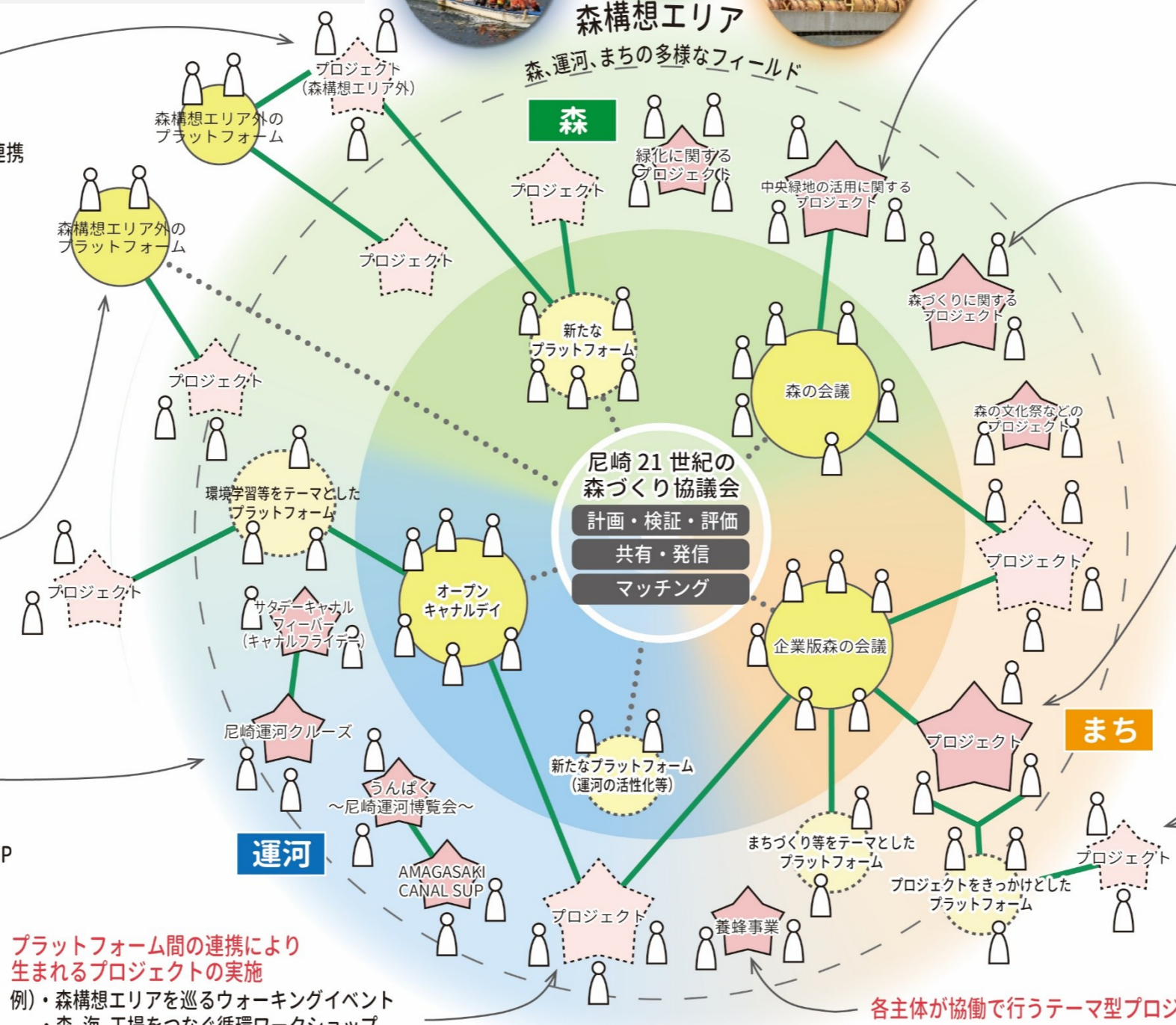


プロジェクトをきっかけとした参加者同士の連携による別のプロジェクトの実施

- 例)・企業間連携による新事業の実施
- ・企業と学校の連携による環境学習の実施

各主体が協働で行うテーマ型プロジェクト

- 例)・養蜂事業等



森構想エリア外でのプロジェクトの実施

- 例)・森構想に関する取組のPR
- ・県内各地の県立公園等との連携
- ・運河の再生や活用に取組む他都市事例との連携



森構想エリア外のプラットフォームとの連携によるプロジェクトの実施

- 例)・近隣市等と連携した観光振興
- ・オープンファクトリー
- ・環境学習フィールドとしての受け入れ
- ・みんなの尼崎大学(尼崎市)との連携

協働によるプロジェクトをきっかけとした新たなプロジェクトの実施

- 例)・サタデーチャンネルフィーバー
- ・尼崎運河クルーズ
- ・AMAGASAKI CANAL SUP



プラットフォーム間の連携により生まれるプロジェクトの実施

- 例)・森構想エリアを巡るウォーキングイベント
- ・森、海、工場をつなぐ循環ワークショップ



多様な主体(県民・NPO、企業、大学・研究機関、行政等)

プラットフォーム 多様な主体によるプラットフォーム(場・機会)

プロジェクト 協働・共創による森構想にかかわるプロジェクト(イベント、取組、情報発信等)

今後の展開として生まれる新たなプラットフォーム、プロジェクトのイメージ


多様なつながり ..... 協議会への参加等

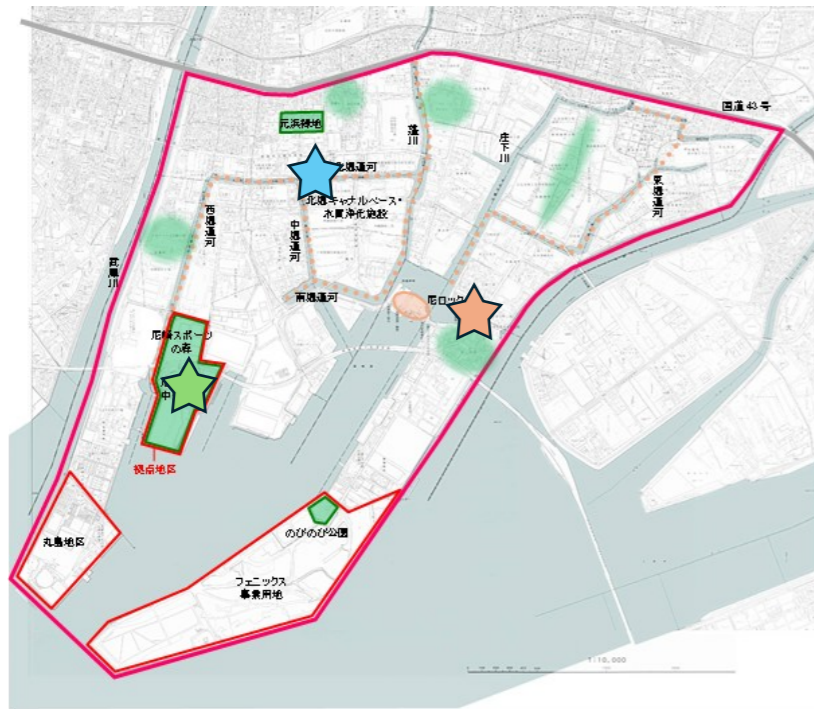
共創によるまちづくりの森構想エリアでの展開イメージ

森構想エリアにおける共創による取組の展開（イメージ）

当初～（イメージ）

- 尼崎の森中央緑地において、森づくりに関する取組を継続的に実施。
- 北堀チャンネルベースを中心に、運河の利活用に関する取組を継続的に実施。
- 企業による敷地内緑化（県民まちなみ緑化事業の活用、すきま緑化等）に関する取組を実施。


 森構想エリアの特性をいかした協働による活動等



拠点施設（中央緑地や北堀チャンネルベース）を中心に共創の取組が展開され、森構想エリア全体では限定的。

現在（イメージ）

- 森（中央緑地）と運河が連携し、各フィールドで活動している各主体の共創によるイベント等を実施（運河魅力アップイベント等）。
- 企業版森の会議を通じて、企業間連携による取組を実施。



 森構想エリアの特性をいかした協働・共創による活動等

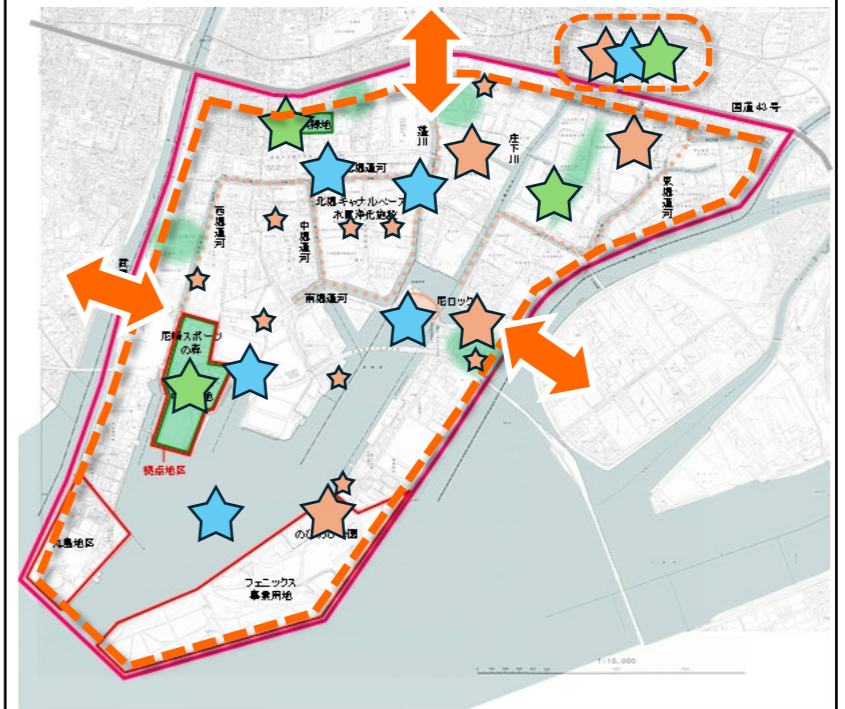


森と運河の連携や企業連携による取組が実施され、共創の取組が森構想エリア全体へと広がる兆しがみられる。

将来（イメージ）

- 森、運河、まちといった多様なフィールドをいかして、共創の取組が森構想エリアの各地で実施され、さらには森構想エリア外へと取組が広がっている。

 森構想エリアの特性をいかした共創による活動等  
 森構想エリア内外で連携した活動等



多様なフィールド・主体が連携し、森構想エリアの各地及び森構想エリア外へ共創の取組が広がる。